



3月18日

全国植樹祭 天皇皇后両陛下お手播き苗木を
植樹する栗市長

ごあいさつ

平成30年4月6日

気温が一気に上がり、それに合わせるかのように桜の花がいつせいに咲きました。見渡せば街中が淡いピンク色に染まり、そこもここも桜の樹だったのかと気づきます。春のひとときに桜をめぐるために植樹し、蕾が膨らむ度合いや、雨が降れば花が散るのではないかと心配する気持ちを持つのは、私自身も含めて花を愛する心のある人が、いかに多いかということをあらためて感じます。

新年度を迎え、市役所の組織を一部改編いたしました。企画振興部の秘書広報課を廃し、広報広聴係を市民協働課に、秘書係を総務部総務課内に新設した秘書室に移し、産業振興課を産業建設部から企画振興部に移しました。それに伴い、産業建設部については名称を土木部に改めました。今回の編成は、特に企画振興部の機能を強めることで、観光振興や産業の創出につなげ、あえて言うならば野々市ならではのものが発信できれば、と考えております。

行政は市民の皆さんが生活されるうえでのご支援を含めたサービスを展開していかなければなりません。しかしながら、短期的であっても何をするかという優先順位をつけます。中長期的に進めていく事業でも、思い描くものも一度にはできず、当然のことながらこれも優先順位をつけて取り組んでいくことになります。

来年春に完成する中央地区の「地域中心交流拠点施設」は、単に、これまでの中央公民館の建てかえということではなく「ひと」が集い、交流することで新たな「こと」や「もの」の展開があるようなステージを整えるための施設の整備です。この拠点施設と、文化会館とカレードを拠点に市民の皆さん自身が発信できる「ことづくり」や「ものづくり」を大いに期待しております。

新年度事業に「野々市版コミュニティ・リビング」があります。これは国の地方創生の交付金の事業で、採択していただくため、この名称をつけてスタートしました。「コミュニティ」ですから、多くの人たちが交流され、そのうえ「リビング」ですから、自宅のリビングに例えれば、家族が集まる、友だちが集まる、ワイワイガヤガヤと話しながら楽しくできるのがリビングです。「地域中心交流拠点施設」と文化会館とカレードを含んだ「文化交流拠点施設」を結んだ、旧北国街道を舞台に新たな賑わいを創り出すプロジェクトを展開していくのがねらいです。そして、何をすることも一番大切なのは「ひと」です。「ひとづくり」ということで中央公民館が主催する事業の企画・運営に携わる養成講座、コミュニティ活動の促進手法を学ぶ講座も開講いたします。これをかわきりに、徐々に事業を進めていく予定をしております。

ながく続けているイベントの始まりにはそれぞれの経緯があります。「北国街道野々市の市」は、地域の皆さんが先駆けて取り組まれ、まさに市民主導で続いている事業です。椿まつりも、昨年、全国椿サミットと同時開催したことにより、今年は関わるスタッフや市民の皆さんの雰囲気になにかしら違うような気がしました。サミットを経験されたことで自信がでてきたのかもかもしれません。

今年は1月から雪が多く、雪害対策にも悩まされました。それだけに春の訪れが待ち遠しく、ここぞと咲き誇る花々にも生命の輝きを感じます。桜、椿、そしてこれから新緑を迎える季節になります。種類や形はそれぞれ違って、その存在を知らしめるかのような力強さに私たちも学ぶものがあります。

植物たちに負けずに、野々市の魅力の発信に努めていきたいと思っております。